

令和5年度

## 全国学力・学習状況調査の分析結果と今後の取り組みについて

令和5年10月31日

小城市立三日月小学校

4月に行われた全国学力・学習状況調査（6年国語・算数）の本校の結果をお知らせします。国語と算数については、学習指導要領の内容別の主な課題と改善に向けた取り組みについてまとめています。また、生活習慣に関する児童質問紙調査については、数値が高かった項目と低かった項目を挙げ、分析と今後の取り組みについてまとめました。

### 【調査結果のポイント】

全国的な傾向として以下の課題が報告されています。本校でも同じ傾向が見られます。

#### 国語科

- ◆複数の情報を整理して自分の考えをまとめたり書き表し方を工夫したりすること。
- ◆情報と情報との関連付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し、使うこと。
- ◆図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。
- ◆複数の資料を読んで理解したことを関連付けながら、自分の考えをまとめること。

#### 算数科

- ◆図形を構成する要素などに着目して、図形の性質や計量について考察すること。
- ◆示された日常生活の場面を解釈し、小数の加法や乗法を用いて、求め方と答えを記述し、その結果から条件に当てはまるかどうかを判断すること。
- ◆高さが具体的に示されていない複数の三角形について、それらの面積の大きさを判断するのに必要な情報を見だし、その理由を記述すること。
- ◆伴って変わる二つの数量が比例の関係にあることを用いて、知りたい数量の大きさの求め方と答えを記述すること。
- ◆示された棒グラフと、複数の棒グラフを組み合わせたグラフを読み、見いだした違いを記述すること。

### 【本校の全体の正答率について】

国語の全体の正答率は、国・県の平均とほぼ同じです。  
算数の全体の正答率は、国・県の平均をやや下回っています。

### 【個票の配布について】

個児童の結果（個票）については、6年生児童に前期通知表とともに配布しています。なお、国が採点を行っているため解答用紙の返却はできませんのでご了承ください。

### 【今後の取り組みについて】

本校では、8月に職員研修を行い、今回の結果を詳しく分析しました。その分析をもとに、授業の改善等に生かし、学力の向上を図っていきます。家庭学習の具体的な取り組み・お願いについては、「授業及び家庭学習の取り組みについて」を配布しています。学習に対する取り組み方や学習方法を工夫することによって、より学力の定着を図ることができます。本校の取り組みを御理解いただき、ご協力いただきますようお願いいたします。

# ◆令和5年度全国学力・学習状況調査《 6年生 国語科 》

## 【全体の概要】

- ・全体の正答率は、県・国の平均とほぼ同じだった。
- ・知識・技能の「言語の特徴や使い方に関する事項」は、全国や県の平均とほぼ同じだった。
- ・思考・判断・表現等の「書くこと」は全国や県より大きく下回り、「読むこと」はやや下回っていた。
- ・問題形式では、短答式は全校や県より上回り、記述式は全国や県より下回っていた。

観点	分析結果・自校の課題	改善に向けた具体的取り組み
知識・技能	<p><b>【言語事項】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・①㊦文脈に合わせて平仮名を漢字に書き直す問題は、県平均を大きく上回るものと、県平均をやや下回るものがある。大きく上回った問題は、日常的に指導を繰り返していたものだった。</li> <li>・③㊦正しい敬語を選択する問題は県平均よりやや下回った。「申した」「うかがって」など、子ども達になじみがなく、経験値が少ないことが課題とみられる。</li> </ul>	<p><b>【言語事項】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・漢字の指導では、筆順の確認にとどまらず、辞書を用いた意味調べや、文脈に合わせて使い分ける練習をデジタル教材等も活用して数多く当たらせていく。</li> <li>・教師が意図的に敬語の使い方について投げかけ、子ども達の経験値を上げていく。まずは丁寧語からスタートさせ、少しずつステップアップさせていく。</li> </ul>
	<p><b>【書く】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・①㊦文章を比較したり、特徴をつかんだりする問題では、県平均を上回っている。文章が箇条書きで端的に記されていたため、比較しやすかったと思われる。</li> <li>・②㊦文章の整理の仕方を問われる問題では、県平均をやや下回った。書かれた文章や図から書き手の意図を捉えることが不十分である。</li> </ul>	<p><b>【書く】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分が書いた文章の意図を相手に説明するという話し合い活動から、文章の意図を相手に質問するというスタイルの話し合い活動も取り入れていくことで、書き手の意図を捉える練習に取り組みさせる。</li> </ul>
思考・判断・表現	<p><b>【話すこと・聞くこと】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・③㊦(2)は、全国と比べ3ポイント以上上回っていた。質問をした理由として適切なものを選択する問題で、相手の話す内容を理解し、適切に答える話し合い活動が活かされていると考えられる。</li> </ul> <p><b>【書く】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・①㊦は県に比べて8ポイント以上下回っていた。カードや図表を基に分かることをまとめる問題で、資料の読み取りが困難であったと考えられる。</li> </ul>	<p><b>【話すこと・聞くこと】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・話し合い活動の弱さが見られるため、目的や意図を明確にした話し合いや相手の意見を踏まえ、自分の考えを伝える活動を設定する。ディベート的な話し合いなどを計画的に設定する。</li> </ul> <p><b>【書く】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国語以外でも、目的に応じて資料を読み取る活動を十分に行う必要がある。また、書き出しを決めて続きを書かせたり、問題点や解決方法を制限された字数や時間の中で書いたりすることに慣れさせることが大切である。</li> </ul>
	<p><b>【読む】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・②㊦は、全国に比べて、本校は2ポイント以上上回っていた。資料から分かったことを書き、さらに自分の考えを書く条件作文ができていた。無解答率も低く、日頃からの分かったことを基に書く活動が活かされていると考える。</li> <li>・②㊦は、県に比べて8ポイント以上下回っていた。カードや図表を基に分かることをまとめる問題で、資料の読み取りが困難であったと考えられる。</li> </ul>	<p><b>【読む】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・資料を読む際には、重要な部分に線を引くように指導することが必要である。</li> <li>・複数の資料から重要な部分を抜き出して1つのメモにする活動も取り入れる必要がある。</li> </ul>

# ◆令和5年度全国学力・学習状況調査 《 6年生 算数科 》

## 全体の概要

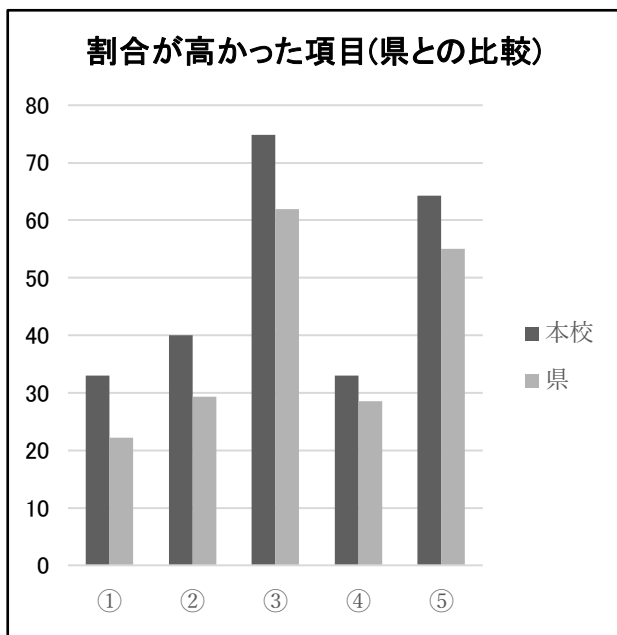
- ・全体の正答率は県の平均をやや下回り、全国の平均を下回っている。
- ・領域別では、「データの活用」は、県の平均、全国の平均とほぼ同じで、「変化と関係」は、やや下回っている。「数と計算」「図形」は県の平均、全国の平均を下回っている。
- ・評価の観点別では、「知識・技能」、「思考・判断・表現」ともに、県の平均をやや下回っている。
- ・問題形式別では、選択式や短答式に比べ、記述式の正答率が低く、県や国の平均との差が大きい。

観点	分析結果・自校の課題	改善に向けた具体的取り組み
知識・技能	<p>【図形】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・<b>2</b>(1) 台形の意味や性質についての理解が不十分である。</li> <li>・<b>2</b>(4) 正三角形の意味や性質についての理解が不十分である。</li> </ul>	<p>【図形】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・図形の定義や定理を意味を伴った理解ができるように、デジタルコンテンツを活用しながら、理解を深めさせる。</li> </ul>
	<p>【数と計算】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・<b>1</b>(4) 一の位が0の二つの2位数について、乗法の計算をすることができでない。</li> <li>・<b>3</b>(3) 加法と乗法の混合した整数の計算をしたり、分配法則を用いたりすることに課題がある。</li> <li>・<b>4</b>(1) 百分率で表された割合について理解が不十分である。</li> </ul>	<p>【数と計算】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・計算の決まりを視覚的に分かるように波線や印をつけることを統一し、反復練習を徹底する。</li> <li>・割合の意味を多様な表現方法で表した問題等に取り組みさせる。</li> </ul>
思考・判断・表現	<p>【図形】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・<b>2</b>(4) 高さが具体的に示されていない複数の三角形について、それらの面積の大きさを判断するのに必要な情報を見だし、その理由を記述することに課題がある。</li> <li>・問題の条件を把握できていない。(テープの上下が平行になっていることや高さが同じになることなど)</li> </ul>	<p>【図形】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・問題解決型の学習での自力解決や2人組、3人組での練り合い活動の充実を図る。</li> <li>・問題文に印をつけたり線を引かせたりする。また、デジタルコンテンツを積極的に活用し、視覚的な理解を深めながら、問題把握のさせ方を改善する。</li> </ul>
	<p>【変化と関係】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・<b>1</b>(3) 比例の関係にあることを用いて、知りたい数量の大きさの求め方と答えを式や言葉を用いて記述することに課題がある。</li> <li>・<b>3</b>(2) 示された日常生活の場面を解釈し、小数の加法や乗法を用いて、求め方と答えを記述しその結果から条件に当てはまるかどうかを判断することに課題がある。</li> <li>・<b>4</b>(3) 示された棒グラフと、複数の棒グラフを組み合わせたグラフを読み、見いだした違いを言葉と数を用いて記述することに課題がある。</li> <li>・目的に合った数の処理の仕方を考えることができていない。</li> </ul>	<p>【変化と関係】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2段階の式が必要になる問題では、類題を解きながら、段階的な説明の仕方(プログラミング的思考)を習得させていく。</li> <li>・日常生活によくある場面を問題場面として取り上げ、先行経験に即した練習問題に取り組みさせる。</li> <li>・場面を解釈して数量の関係を捉え、問題の解決方法を式や言葉を用いて説明できるように指導する。</li> </ul>

## ◆生活習慣に関する調査「6年質問紙（意識調査）」R5

### 【 割合が高かった項目(県との比較) 】

調 査 の 項 目	
①	資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していた児童の割合
②	困りごとや不安があるときに、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる児童の割合
③	将来の夢や目標をもっている児童の割合
④	国語の解答時間が十分だった児童の割合
⑤	算数の解答時間が十分だった児童の割合

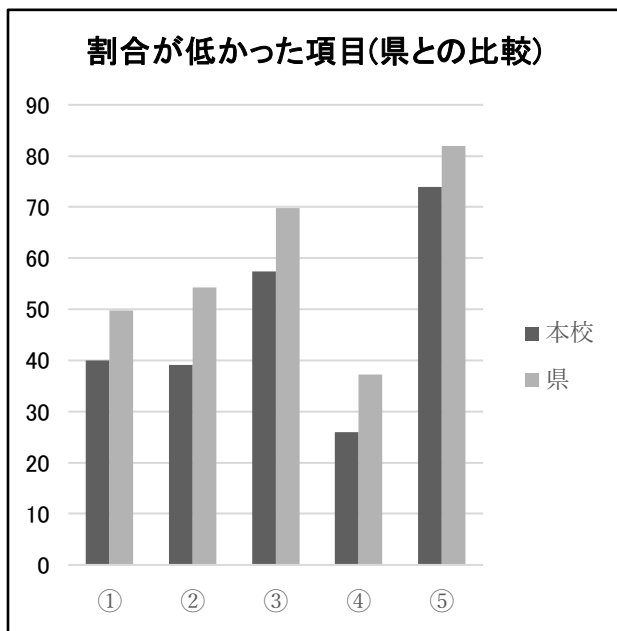


#### 【分析と取組】

- 資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表できる児童が多い。  
→今後も工夫して発表できる場面を設定していく。
- 先生や学校にいる大人にいつでも相談できるという児童が多い。  
→アンケートなど相談しやすい取り組みや話しやすい雰囲気づくりを継続していく。
- 将来の夢や目標をもっている児童が多い。  
→5年生の総合的な学習の時間でキャリア教育を継続して取り組んでいく。社会体育での活躍も全校で取り上げていく。
- 国語、算数の解答時間が十分だった児童が多い。  
→時間配分を考えながら問題を解くという習慣づけを継続していく。合わせて、見直しや粘り強く考えることも指導していく。

### 【 割合が低かった項目(県との比較) 】

調 査 の 項 目	
①	土日など休みの日に、1日当たり1時間以上勉強している児童の割合
②	月曜日から金曜日に、1日当たり1時間以上勉強している児童の割合
③	家で自分で計画を立てて勉強をしている児童の割合（学校の授業の予習や復習を含む）
④	授業時間以外に、月曜日から金曜日に、1日当たり30分以上の読書をしている児童の割合
⑤	毎日、同じくらいの時刻に寝ている児童の割合



#### 【分析と取組】

- 平日や休日に関係なく、家庭学習の時間が少ない児童が多い。  
→家庭学習の充実のために、課題の出し方を工夫したり、家庭との連携を深めたりする。
- 自分で計画を立てて勉強（学校の授業の予習や復習）をしている児童が少ない。  
→読書タイム、宿題の活用などで、本に触れる機会を増やす。
- 普段、読書をあまりしていない児童が多い。  
→読書タイム、宿題の活用などで、本に触れる機会を増やす。
- 毎日、同じくらいの時刻に寝ることができない児童が多い。  
→SNS やゲーム等で、就寝時間が遅くなり、朝起きられない児童が見られるので、家庭と連携し、規則正しい生活をするためのルール作りをする。